

『税は未来へのバトン』

足立区立第十三中学校 三年二組

金子 彩

「税金って何？」と聞かれた時、皆さんならどう答えるだろうか。私は、未来へのバトンで、私達が支え合って生きていくための基本となるものだと考える。

私は、図書館で本を借りたり、勉強をするのが好きだ。その日も集中して課題を終わらせようと図書館に行った。課題というのは、この税についての作文だ。なかなか内容がまとまらず、一旦本を借りることにした。興味のある本を次々に手にとってみると、ふとこの本がもしお金がかかったらどのくらいの額になるのだろうと疑問に思った。本の値段を合計してみると九冊で一萬五千元程だった。もし、この額を支払うことになるのなら、長い時間悩んだ挙句、一番欲しい本を買うだけだろう。図書館で多くの本を無料で気軽に借りられるのはなんと有難いことか。

そこで私はあることに気付いた。これらの本は全て税金で購入されたもので、この図書館の運営、維持も全て税金でまかなわれているのだ。

私は来春、高校に入学する。都立高校と私立高校とでは授業などの費用に差があることを知った。都立高校は東京都民の税金が使われているからだ。一方、私立高校の授業料に補助金が出る場合もある。これも税金だ。学生が学ぶ機会を与えてもらえることはとても助かる。

子どもや若者が自由に本を読み、学び、そこで得た知識を将来の仕事に生かし、立派な大人として税金を納め、その税金の一部が図書館に使われ、また次世代の力になっていく。だから、税金は未来へのバトンなのだ。

では、社会のための税金はどこからくるのか考えてみる。税金の種類は約五十種類ほどあるが、そのうち国の歳入の多くを占める消費税と所得税に着目してみよう。消費税は商品を買ったり、サービスの提供を受けたときにかかる。千円の物でも支払いは千百円となる。所得税は個人の一年間の所得にかかる。収入額から税金が差し引かれるため、実際に手に入るお金は元の金額より少なくなる。このように税金は納める側からすると負担であることは確かだ。

では、税金がなくなったらどうなるだろう。未来へのバトンがとぎれてしまうだけではない。例えば、ゴミ収集は今の日本で約二十五億円、税金から使用されている。この金額を個人で支払うとなると一人あたり約四千円支払わなければならない。他にも税金で賄われている病院や警察、消防の運営はできなくなり、公共事業や震災の復興への取り組みも困難になるだろう。

税金は、いざ困ったときに支えあうためにあり、みんなのため、そして自分のため、未来のために納める必要がある。私は、きちんと納税できる人、税金について理解している人になりたいと、税の学習をして感じた。